

平成23年度 事業報告

3月11日の未曾有の東日本大震災の影響により、4月の宿泊客は前年度対比で9,914人13.6%の減となり大変厳しいスタートとなりました。

全国的な自粛ムードとなった結果であったが、対策として、県が中心となった「岐阜を旅して日本を元気に」と題し、東海地域を中心にキャンペーンを打ち出し、それにいち早く下呂温泉観光協会を始め下呂市観光協会連絡協議会、旅館協同組合、市が一体となり、参画しました。

岐阜県が東日本地域に位置することから、放射能汚染に対して危険と思われており、それを払拭するため、独自で、西日本方面の福岡、広島、岡山、大阪に出かけキャラバンを行い、その後関東方面の東京、栃木、埼玉、静岡、また北陸方面の金沢などにも出向きキャラバンを行なって参りました。

宿泊客の増加を目指し即効的な誘客対策と、将来に向けての人材育成や魅力ある観光地づくりを進めると共に、地域での観光コーディネーターの役割が重要であることを鑑み、岐阜の宝ものや魅力を生かした提案、様々な手段やパブリシティでの情報発信、各地での観光物産展、キャラバンなどによる誘致宣伝事業および観光客誘致会議などを開催して参りました。

下呂市、下呂商工会、下呂温泉旅館協同組合などとの連携を強化し、経済の活性化、雇用の拡大を図る事業を進め、「MICE」によるコンベンションを様々なチャンネルで誘致するように努めて参りました。

恒例の「いでゆ夜市」、「花火ミュージカル冬公演」、「下呂温泉花火物語」など市や関係団体との連携を進めると共に、また、最近特に増えてきた若者の街歩きなどのニーズへの対応をして参りました。

植樹・清掃活動などの環境整備事業や、近隣観光地との連携を深め連泊できる魅力ある観光地づくりを目指し、おもてなしの向上を図って参りました。

高山本線強化促進、研修事業としての「車上セミナー」の実施、並びに日本三名泉との交流を深めて参りました。

海外戦略としては外国人誘客のための招致事業や観光展への参加など、インバウンド事業も積極的に進め、さらに韓国、台北、台湾にも出向き、安全性をアピールして参りました。

それらの取組の結果、平成22年度に100万人を切っておりましたが、平成23年度には100万人を回復することができました。これも偏に関係各位のご尽力のおかげと感謝いたします。

東日本大震災復興支援につきましては、旅館組合が中心となり行われました福島から非難された方々の受け入れや、宮城県にタンクローリーで温泉を配達させていただきました。

以上各種事業に対しまして、ご協力いただきました皆様に感謝申しあげまして、報告とさせていただきます。